

子どもの自転車デビューを楽しい思い出に



プロダクトデザイナー
渡辺 未来雄

キーエンスで全国各地のモノづくりに携わった後、2005年にビタミンアイファクトリー設立。当初はプレイボードを販売していたが、自転車デビューに悩む親子のサポートを目的に「へんしんバイク」を発売。2011年に初代モデルを発売。

子どもの自転車デビューに最適なペダル後付け自転車の大ヒットシリーズ「へんしんバイク」はどうやって生まれたのか？ 発明品には誰かのためという想いと、常識にとられない新しい視点、さらに具現化するための意外なほどシンプルな構造が必要だということがわかる深〜い話。

写真 / 飯崎 大(WPP) 文 / 下川冬樹

へんしんバイク
Henshin Bike



「へんしんバイク」の梱装箱をミシン目に沿って切り取り、付属の専用パーツを装着すればエコなペダル練習用スタンド「ペダルくん」の完成。この仕組みも特許取得済み。専用パーツの開発ではいくつもの試作を行った。

背の小さな子どもも乗れるように、サドルは本体フレームの高さギリギリまで下げることが可能。また、サドル先端を凹ませ、やわらかくすることで乗り心地の快適性もアップ。そう、サドルが硬くて痛い子どもは乗らないからだ。

子どもの内面の変身を願って生まれた愛情バイク

「キックバイクから自転車に。へんしん。することもありますが、本当のところは自転車デビューに挑戦することで、内面的な部分での子どもの、へんしんを願ってネーミングしたもののなのです」とは「へんしんバイク」の開発者であるビタミンアイファクトリー代表の渡辺未来雄さん。自分自身の体験や子育て経験から「子どもは10歳までに大きな挑戦を3回する」とい「が持論。子ども時代の大きな挑戦のひとつが自転車デビューというわけだ。まだ日本にないキックバイクをヨーロッパで見つけた時、単体で遊ぶより、そのまま自転車になれば、簡単に自転車に乗れるに違いない。自転車に乗るために必要なバランス感覚とペダル回しを身に付けやすいようにペダル部とチェーン部の着脱が可能な機構を考案。子どもの安全には、余計な癖をつけず大人と同じ操作が身に付くように前後ブレーキをつけ、2011年に初代「へんしんバイク」を発売

キックバイクから自転車に「へんしん」させられる際は自転車本体を上下逆さに裏返し、ペダル部を取り付ける。「へんしんバイク2」と「C14」に搭載された第2世代の独自のペダル取付機構は2024年に世界特許を取得済み。

見て触れて体験できる 駒沢ショールーム



東京・駒沢公園至近にあるビタミンアイファクトリーのオフィス兼ショールームには、試乗用ミニコースもレイアウト。親子で楽しめるプログラムで実際に「へんしんバイク」に乗ってリアルなフィードバックを体感することができる。「自転車デビュー屋」の名にかけて、2012年から自転車デビューしたい子ども向けに「30分で乗れる自転車教室」を行い、これまでに累計1300回以上開催。まずはショールームへ。③ 東京都世田谷区駒沢公園1-1 Tote駒沢公園2F 事前予約制 <https://www.vitamin-i.jp/contact>

した。翌年からはじめた「30分で乗れる自転車教室」も好評で「へんしんバイク」も大ヒット。初代モデルは、へんしんの、際に自転車店での取付作業が必要だったが、自転車店が減少する中で自宅でも簡単にペダルの着脱ができたとしても便利になると第2世代のペダル取付機構を開発。2021年発売の「へんしんバイク2」、2023年フレームビルダーケルビムの力を借りて開発した7歳まで乗れる「へんしんバイクC14」に搭載している。ペダル部は本体に載せてビス止めするだけ、チェーン部もフレームに着脱可能な部位を設けそこからチェーンを通すシステムと仕組みは非常にシンプルで、なるほどね、そう来ましたか！と頭を唸らされる。従来の自転車屋ではないからこそ生まれた発想なのかもしれない。そんな渡辺さんにとって「へんしんバイク」とは？「友だちであり分身。へんしんバイクがあれば、全国どこでも私の代わりに子どもたちの自転車デビューを優しく見守ってあげられるわけですから」。